カタログからみる家庭用台所の変遷
The Change of Family Kitchen Looking from Catalogues

戸村　将之*・藤谷　陽悦**・柳田　伸幸***・内田　青蔵****・安野　彰*****
TOMURA Masaaki・FUJIYA Youetsu・YANAGIDA Nobuyuki　・UCHIDA Seizou・YASUNO Akira

家庭用台所、カタログ、サンウェーブ工業株式会社、製品寸法、JIS 規格
Kitchen for families looking, Catalogue, Sunwave, Product size, JIS standards

要旨

現在、多種多様な家庭用台所設備が発売されているが、それらの商品がどのような変遷を経て、現在に至ったかを調査することにより、台所設備を使用する消費者のニーズの移り変わりを捉えることができる。サンウェーブ工業株式会社（以下 S 社と略す）より提供されている消費者向け商品カタログの記載内容、掲載方法を基に商品の情報を整理することで、カタログの変遷及び家庭用台所設備の変遷を追うことで、台所と社会的ニーズの対応関係を考察するものである。

1, はじめに

サンウェーブ工業株式会社(以下 S 社と略す)は、菱和工業株式会社と三中工業株式会社が合併して、1954 年に設立され、住宅用厨房設備機器、住宅用衛生設備機器及び業務用設備機器を経営の主力にしている会社である。

商品カタログは、当時発売されていた台所設備のラインナップが紹介されており、その変遷を追うことで台所の移り変わりを捉えることができる。現在までに S 社より提供されたカタログにより、カタログの変遷及び家庭用台所設備の変遷を追うことで、台所と社会的ニーズの対応関係を考察する。

表 1：現在 S 社が保有しているカタログ

年月	種類	年月	種類
1968.6	製品	1976.7	総合
1970.9	製品	1976.9	総合
1971.6	総合	1977.2	総合
1972.8	総合	1977.3	総合
1972.9	総合	1978.9	総合
1973.3	総合	1978.11	総合
1973.5	総合	1978.12	総合
1973.7	総合	1979.3	総合
1973.9	総合	1979.4	総合
1974.2	総合	1979.9	総合
1974.5	総合	1980.3	総合
1974.6	総合	1983.5	総合
1974.9	総合	1984.9	製品
1974.12	総合	1985.11	製品
1975.8	総合	1987.5	総合
1975.12	総合	1989.12	総合
1976.3	総合	1993.9	製品
1976.6	総合	1996.8	製品

2, カタログについて

カタログには①キャッチフレーズ②商品名③写真④型番⑤価格⑥形状⑦寸法⑧機能⑨色⑩説明文が紹介されている。

現在の S 社では、カタログ発行間隔は約 3 ヶ月毎と決まっているが、表 1 より 1977 年～1979 年には 1 ヶ月間隔で発行されている期間も見受けられる。

また、各号を追うことで、①から⑩までに挙げた記載事項は定式として定まっているが表現方法は定まっていないということが、カタログ誌面のデザインより考えられる。自社の商品を大衆にアピールするために特色と商品の情報だけでなく、①から⑩までの事項を特徴ある表現手法でプレゼンテーションし、購買意欲を掻き立てる努力を行なっていたことがわかる。

S 社では CM 関係芸能人として、1975 年～1977 年まで、1971 年に石坂浩二と結婚した女優である浅丘ルリ子を起用している。S 社は他にも CM 関係芸能人として、映画「人間の条件」で夫を追い求めるひたむきな妻役を演じ、ブルーリボン助演女優賞を受賞した新珠三千代、ドラマ「肝っ玉かあさん」で看護学校に通う娘の大正三三子役を演じた沢田雅美、芸人である三遊亭円右、1979 年に婚約発表を行った中田喜子を起用している。これらの女優の多くは、契約期間の間近にテレビや映画で妻役として出演したり、婚約を発表していることから、キッチンを使用

*日本大学生産工学部建築工学科　学生
**日本大学生産工学部　教授
***日本大学生産工学部建築工学科　学生
****埼玉大学教育学部　教授
*****文化女子大学　講師

*Nihon University, Student
**Nihon University, Dr.Eng
***Nihon University, Student
****Saitama University, Dr.Eng
*****Bunka Women's University, Dr.Eng

する女性像をイメージさせていたことが考えられる。この中より浅丘ルリ子、中田喜子がカタログに起用されている。

表２：サンウェーブ CM 関係芸能人

写真					
芸名	新珠三千代	浅丘ルリ子	沢田雅美	三遊亭円右	中田喜子
契約期間	1960-1964	1977-1979	1977-1979	1977-1979	1981-不明
生年月日	1930.5.15	1942.7.2	1949.7.11	1923.12.8	1953.11.22
芸暦その他	テレビドラマ「細腕繁盛記」他	話題作「栄光への500K」「戦争と人間」「寅さんシリーズ」他	（洗面化粧台中心）	（ステンレス浴槽中心）	NHK連想ゲーム女性チーム担当

参考文献：サンウェーブ誕生30周年記念誌

1984 年 9 月号、1985 年 11 月号、1993 年 9 月号を除く、全てのカタログに女性モデル若しくは子供が掲載されている。また表 2 よりカタログに掲載されているモデルは 30 歳前後の女性を中心に構成されていることがわかる。このことより、購買者として 30 歳前後の女性をターゲットにしていたと考えられる。

その他の特徴のある表現手法として以下の 3 点が挙げられる。

①キッチンをダイニングに配置し、調理をしている人や、食器や鍋などを乗せたイメージ写真を掲載することで、実生活をイメージさせる方法がとられている。②ステンレスや大理石といったトップ材質、カラーや柄による扉デザイン、熱や傷に強い耐久性の説明をすることで製品レベルの高さを強調する方法がとられている。③回転式網棚やスライド式収納といったアイデア収納、油汚れなどに対する手入れ面、製品寸法の説明をすることで使い勝手のよさを強調し、他社との差別化を図ることが特に重要視されている。

またカタログ誌面の表現方法の変遷として、〈図 1〉では台所全体の大きな写真を 1 枚載せ、そこに言葉を付け加えて機能を説明しているのに対し、〈図 2〉では台所全体の写真を載せ、各部位毎に写真を大きく扱うことで、表現方法を言葉主体から写真主体に切り替えていることがわかる。カタログからの分析では 1971 年 6 月号から表現方法を切り替えていこうとする姿勢が伺える。

このことから、①～③で取りあげた事項については年代が変化していくにも拘らず、表現方法を変化させて購買意欲を掻き立てる努力を行なっていたことがわかる。

図１：カタログ(1968 年 6 月号)P. 1-P. 2

図２：カタログ(1973 年 3 月号)P. 3

3, 台所設備の高さ

消費者のニーズに応えるため、家庭用台所設備はその都度開発されてきた。今回はカタログ上で商品の移り変わりが最も大きかった 1971 年、1977 年、1983 年、1987 年のカタログを中心に記述する。

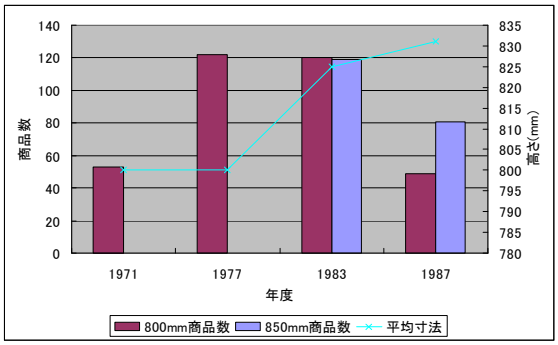
1971 年に最高級キッチンとして発売されている「8S」1) を除いて、カタログに掲載されている全商品の寸法は一定であり、奥行は 550㎜、床面からの高さは 800㎜ となっている。また 1977 年のカタログ掲載商品についても、奥行きは 550㎜、床面からの高さは 800㎜ となっている。これは、1961 年に制定された JIS 規格が人間工学に基づいた為、奥行 550㎜、高さ 800㎜ の寸法が採用されたためと考えられる。

1969 年に井上工業 2) から高さ 830㎜ の“ハミー 83”が発売された。この頃は、女性の体位向上が世間で話題になった時期であり、これが台所の高さを引き上げるきっかけとなったと考えられる。1971 年には井上工業で高さ 850㎜ である“ダイヤモンドDX”

が発売されている。これを機に台所の高さに対する関心は深まり、1972 年 3 月に JIS 規格が変更され、高さ 800mm から、高さ 800mm・850mm の二種類に広がったと考えられる。

S 社はこの新 JIS 規格の制定により、1983 年から高さ 850mm の台所を順次発売している(表 3)。1987 年には高さ 850mm の商品数が高さ 800mm の商品数を上回っており、新 JIS 規格の制定により、S 社は高さ 850mm の台所を主力製品として販売していったことが考えられる。

表 3：ワークユニット　高さ



4, 台所設備の奥行き

台所設備の奥行については、住環境の向上によるデザインの多様化、安全性、使い勝手及び水道管を組込むときの寸法を配慮し、1972 年 3 月に JIS 規格の改定が行われて 550mm、600mm の二種類に改められた。S 社は 1971 年に 550mm だけを販売していたが、1977 年には JIS 規格の改定に伴い 550mm・600mm の 2 種類を販売していたことがわかる。1983 年には 600mm の商品数が伸びている。1987 年には 550mm・600mm・650mm の 3 種類が用意され、台所設備の奥行にはバリエーションが生まれていたことがわかる。またカタログに掲載されている 550mm・600mm・650mm の商品数がほぼ同列であり、この頃から奥行の深い台所が人気を占めるようになったと考えられる。

表 4：ワークユニット　奥行

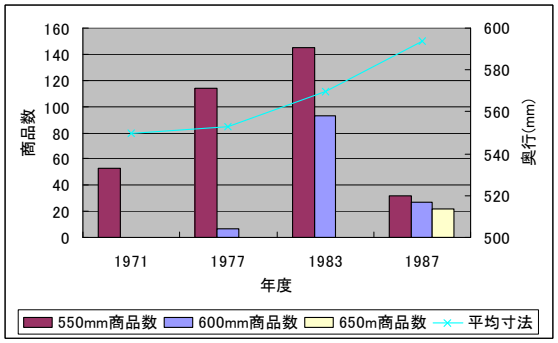


表 5：新 JIS 規格（昭和 47 年 3 月）

新JIS規格(昭和47年3月)工業技術院調べ　　単位：mm

区分/種類	流し台	調理台	コンロ台	複合炊事用具
奥行	550	550	550	550
	600	600	600	600
高さ	800	800	620以上	800
	850	850		850
けこみ奥行	50以上	50以上	50以上	50以上
けこみ高さ	50以上	50以上	50以上	50以上
バックガード高さ	90以上	90以上	－	90以上
水槽底の傾斜	10以上	－	－	10以上
水槽の深さ	150以上	－	－	150以上

参考文献：人と暮らしの文化

5, 台所の色調と仕上げ

台所設備は、表面がほとんど扉で覆われており、扉の色調、デザイン、仕上げが購買意欲に大きな影響を与えたと考えられる。1971 年には扉デザインがホワイト系・木目の 2 種類のみで使用されている。しかし、1977 年にはホワイト系・木目以外に、ホワイトの下部に花柄ラインがはいったデザイン、イエロー、パステルブルー系の 3 種類が登場する。

1980 年には S 社で JOBL プロジェクト(Joyful Original Better Life project)が展開された。これは、トータルシステム化とデザイン化を商品開発理念として掲げたもので、これを機に扉のデザインにバリエーションが生まれることになる。

1983 年にはアボガドグリーン・ホワイトの 2 色を展開した「FG」「PG」3)、マスタードイエロー・マロンブラウンなどの 5 色を展開させた「PX」4)を掲載している。

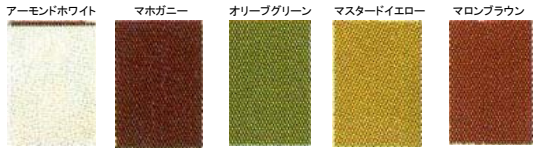
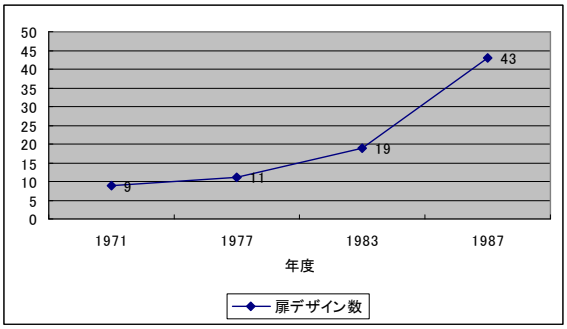


図 3：「PX」扉デザイン

カタログは機能や設備の説明から、商品カラーのバリエーションに主力を置いて販売していく傾向が見られる。

1983 年からは台所のデザイン化がさらに進み、1984 年に発売される「SV84」5) では住空間で扱う部材に互換性を持たせている。またインテリアの統一感を保ったシリーズ商品として、3 シリーズ・3 カラーをベースとして、さまざまな受注に対応できる全 9 種類の扉デザインが用意されている。1986 年には 5 種類を追加して、扉デザインを 14 種類まで増やしている。

表 6：年度別 扉デザイン数



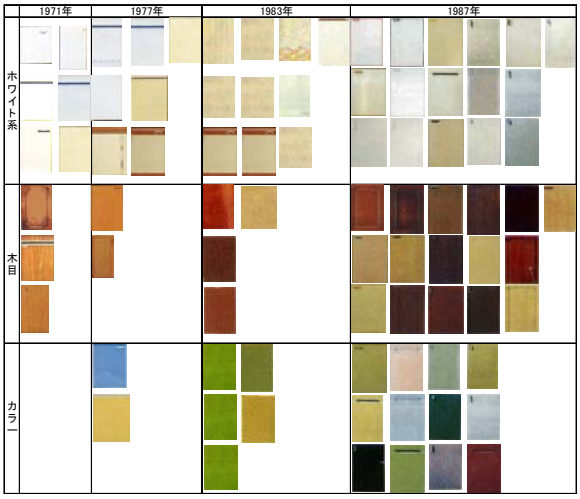


図 4：扉デザインの種類

以上から、1970 年代では 1 商品で 2 種類の配色であった扉デザインが、1980 年代ではほとんどの製品で 1 商品に複数の扉デザイン数が使用されていることがわかる。これは台所がダイニングキッチンへと変化して、人目に触れることのない奥向きの空間から利便性、多様性、個性化、ファッション性を追求した表向きの空間へと変化を遂げたことを表している。

JOBL プロジェクトを商品開発理念として掲げたことにより扉デザインにバリエーションが生まれ、台所設備におけるデザイン化を飛躍的に推し進めた結果であると考えられる。

6, まとめ

本稿では、現在保有している S 社発行のカタログを基に商品の情報を整理し、カタログの変遷及び家庭用台所設備の変遷を追うことで、台所と社会的ニーズの対応関係を明らかにした。まとめると以下のようになる。

①1968 年から 1996 年までの間にカタログの記載事項に変化は見られなかったが、表現方法は変化して購買意欲を掻き立てる努力が見られた②1961 年以降の JIS 規格は人間工学の発展及び女性の体位向上に伴い変更され、JIS 規格の改定後に多くの台所製品で高さと奥行きに寸法変更が行われた。③カタログは 1983 年以降から機能や設備の説明よりも商品カラーのバリエーションに主力を置いて販売していく傾向が見られる。④ダイニングキッチンへと変化して、台所は人目に触れることのない奥向き空間から、利便性、多様性、個性化、ファッション性を追求した表向き空間へと変化を遂げた。⑤消費者のデザインに対する要求が、多様性、個性化、ファッション性の追求へと変化することで、台所製品は、JOBL プロジェクトを商品開発理念として掲げたことにより、ホワイト系や木目の扉デザインにバリエーションが生まれ、社会的ニーズに対応させて多彩なカラーが使用されることになったと考えられる。

このことより、台所製品と社会的ニーズは強い結びつきがあり、社会的ニーズに対応することで、台所製品及びカタログの表現方法が変化していったと考えられる。本稿では、その変化に対応する具体的な技術内容を明らかにできなかったが、それらの解明は次稿における検討課題としたい。

注：

1) S 社では、「グランド 8」という商品名で発売している。ゆとりある大型設計がなされており奥行 600㎜、高さ 850㎜になっている
2) クリナップの前身となる企業で、1983 年に会社名をクリナップに変更している。
3) S 社では、「ETE ホーロー クオリテ」シリーズという商品名で発売している。
4) S 社では、「サンウェーブシステム PX」という商品名で発売している。
5) S 社では、「システムキッチン サンヴァリエ」という商品名で発売している。

参考文献：

1) サンウェーブ誕生 30 周年記念誌 p. 89 サンウェーブ工業㈱ 1985 年 3 月 20 日
2) 人と暮らしの中に：流し台の歴史 pp. 105-106 井上工業㈱ 1979 年
3) 台所空間学辞典 p. 123, 133, 166 北浦かほる・辻野増枝 編著 彰国社 2002 年 4 月 10 日
4) 総合厨房設備（前編） p. 2 サンウェーブ工業㈱ 1967 年 1 月 10 日
5) 表 1 に記載されているカタログ、サンウェーブ工業㈱

（2008 年 9 月 30 日原稿受理，2008 年 11 月 15 日採用決定）